



2019年9月

## トランプ再選

公益財団法人 国際通貨研究所  
名誉顧問 行天豊雄

アメリカの大統領選挙もあと一年に迫って選挙戦も急速に本気度を高めてきた。それにしても今回の選挙は国内環境から云っても、国際情勢から云っても、前例のない画期的なものになることが明らかになった。云う迄もなくその背景を作ったのは第一に世界秩序が第二次世界大戦後始めての本格的な転換期に入ったことであり、第二にはその時期に世界の覇権国アメリカにトランプという異形の大統領が君臨しているという事実である。

今日の世界を眺めて現象的に一番目立って面白いのは、昨日迄の非常識が全く常識と化しており、人々ももうそのことに何も言あげしなくなっていることである。三年前にトランプがティーンエイジャーのようにツイッターを使って自由気ままなメッセージを送り始めた時、世界の驚きは正にショック死寸前だった。伝統的な外交のルールも慣習も無視して大国の首脳が勝手放題に自説を世界にばらまくなどと云うことは、信じ難く、許し難いことと思われたのである。ところがどうだろう。今や世界中の首脳が、法王まで含めて、同じことをやっているのに、非難も批判の声も全くない。

数年前迄グローバリゼーションは不可逆な歴史であるという世界的な合意があり、したがって、ヒト、モノ、カネの流れは多角的に自由になるのが望ましく正しいことだとされていた。ところが今や誰もが二国間の貿易交渉に精を出し、多国間の交渉のニュースよりもその会場の外で行なわれた二国間交渉に関心が集まる。

アメリカも国内外共に歴史的な変化の中にある。来年秋の選挙がとくに重要なのは、アメリカの有権者達がその変化に気づき、それに対応するために、何をしなければならぬのだろうかということを考え始めた最初の選挙になるだろうからである。

アメリカは依然世界一の大国であるけれど、その政治・経済・社会では深刻な制度疲労が進んでいる。貧富の格差は危機的な水準に達している。かつてはそれを補った機会均等の均等も失われた。アメリカン・ドリームは今や絵に画いた餅になろうとしている。相変わらず大量の移民が流入しているが、かつてのように新天地で良きアメリカ市民になろうという決意と希望を持った者は減り、言葉も考え方も違った異質の社会を作って安住しようという傾向が露わになっている。その結果、多くの庶民達は社会の中で自分達

が正当に、親切に扱われていないという不満を滾らせている。政治家や指導者に対する信頼は失われた。

世界はこういうアメリカの悩みを理解しない。アメリカの内向き指向、自国優先主義を非難して世界の指導国家としての意識の欠如、資格の喪失を弾劾する。

アメリカはどうしたら良いのだろうか。アメリカはどういう国になろうとすべきなのだろうか。今、心あるアメリカ人は、多かれ少なかれ、アメリカがこういう深刻な課題を抱えていることに気付き始めていると思う。

アメリカは建国の精神に立ち戻り、敬虔な信仰に導かれ、個人の自由と独立を追い続けるべきなのか。それともリベラルでグローバルな視点で社会を見ながら、政治に大きな役割を果たさせるのか。

トランプに対するアメリカ国内外の批判と敵意は一向に衰えない。なかにはヒトラーに準える者すらある。しかし、トランプが以上に指摘したようなアメリカの歴史的難問を明白に提示した初めての大統領だったことは否定できない。彼に先立つ大統領達の中には誰一人として国民にこの難問を突き付けた者はいなかった。

勿論、トランプが少なくともその第一期中にはこの難問を何も解決できなかったことは事実である。彼の反対者達は彼が予想を絶するスタイルで難問提起をしながら、それを解決できないことを批判の材料にしている。

来年の選挙はアメリカの有権者が第一期のパフォーマンスを見て、トランプには難問解決の能力が無いと判断するか、それとも、もう四年間チャンスを与えてやるかと考えるかが決まる選挙なのである。

お前の考えはどうだと聞かれれば、今日の答えということであれば、トランプは再選されるだろう。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへ寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2019 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>